

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500083		
法人名	合同会社 グローリー		
事業所名	グループホームみつばちの家 西館		
所在地	長崎県大村市竹松本町685-8		
自己評価作成日	令和2年 3月 3日	評価結果市町村受理日	令和3年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和2年6月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかな住宅街のなかにあり、事業所へは駅なども近くアクセスしやすい。施設入口には情報の提供が出来る様に掲示板の設置をしている。年に数回の近隣の保育園との交流も行き、理念である「馴染みの中で ゆったり ぼちぼち ありのままに生きる」をもとに自然に無理せず過ごせる環境作りを力を入れている。また、面会等の時間や家族との外出制限などもせず、いつでも出入り出来る環境づくりに努めている。また、職員それぞれのスキルアップの為に内部・外部研修への参加を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街の中に位置しており、「なじみの中で ゆったり ぼちぼち ありのままに生きる」という理念のもと、職員は利用者にとって思いのままの生活が送れるよう支援している。職員数名がチームを組み、利用者一名のモニタリング、アセスメントを行い、本人の意向や力を活かせるような目標を立てており、チームで利用者の状況を把握し目標を捉え、本人にあった介護計画を作成している。建物の老朽化に伴い、改装工事を行った際には、職員の意見を活かしており、アセスメントの書式変更等も含め反映がある。ユニット間での利用者同士の交流は、利用者・職員の気分転換にもなっている。食事については利用者の希望を聞き取り、日曜日のメニューに反映し喜ばれている。面会時の他、敬老会での家族アンケートで意向と意見を聞き取り反映しており、家族との良好な関係構築に努めている。職員の明るい声掛けが利用者の穏やかな表情に繋がっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴染みの中で ゆったり生きる ぼちぼち生きる ありのままに生きる の理念のもとに管理者職員は実践出来る様に努めているが、人員不足もあり	理念は、利用者に可能な限り思いのままの生活を送ってもらいたいという開設時の職員の思いを継承している。事業所内に掲示し、職員は共有し実践に努めている。日々の会話の中から利用者の希望や訴えを汲み上げ、自然な流れで思いに添えるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣や地域との交流は難しく、保育園等と年1~2回の交流会のみである。運営推進会議には近隣の住民の方に参加しては頂いている。	近隣住民とは散歩時に挨拶や会話を交わしたり、利用者の見守り協力、農作物の差し入れ等地域の一員として交流している。入口の掲示板を活用し、事業所便りや地域が必要とする行政の各種情報発信に努めている。また、保育園児や児童の訪問、イベント時にはボランティアの参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学時や相談ある時は、グループホーム以外のサービスも含め、どのようなものが利用できるかなど説明対応できるように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや報告は行い、頂いた意見等に対しては職員会議などで職員とも共有し、生かしていけるよう努めている。	年6回の会議では、入居者状況と事故・ヒヤリハット集計、委員会活動の報告の他、意見交換を行っており、参加メンバーの意見や要望を運営に活かしている。家族の参加がなく、参加者が少ない回もあり、要望として日程調整の検討が上がっている。現在、解決方法を模索中である。	運営推進会議での意見をサービス向上に活かす上で、家族から意見等は必須である。家族を含め、構成メンバーが参加しやすい会議となるよう、工夫・検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やGH協議会での参加時に質問等ある時は相談等行っている。	書類の提出方法や不明点を尋ねたり、相談に乗ってもらえる等協力関係を築くよう努めており、行政からの情報や資料はメールで届いている。福祉事務所職員が定期的に利用者の面会に訪れている他、介護相談員の受入れもあり、利用者との交流の機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や外部研修ある時は参加できる様働きかけ、身体拘束に対する理解と拘束を行わないケアに取り組んでいる。運営面でも身体拘束適正化委員会を設置し、外部有識者らと2カ月毎に協議している。	外部研修にて学んだ職員が、内部研修で職員に周知を図る機会を持ち、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。安全面を考慮し、センサー使用のケースがあり、2ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会で検討している。言葉遣いについては、職員同士で気づいたら注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされない環境を作り、意見出来る関係を築けていける様に努めている。関連法案を学ぶ機会はまだあまりなく、研修などで機会を作る必要はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人など権利擁護を利用されている方もおり、研修などあれば学ぶ機会を持っていただくよう働きかける、権利擁護についてわからない時は、個別や会議等での説明を行うように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明行っている。また解約時も納得行くよう時間を掛け説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をおこなっているが利用されておらず、家族参加の行事時にアンケート内に入れ込んでいる、また直接意見や相談をいただくこともあり、その際の内容は全体で把握し、運営に生かせるよう取り組んでいる。	重要事項説明書に於いて、要望及び苦情の申し出の手順を明記し、利用開始時に説明している。家族や利用者が、意見を気軽に伝えられるような信頼関係を築くため、職員から声を掛け思いを汲んだり、敬老会では家族アンケートの実施に努めている。要望に対応した後は、フィードバックし、サービスの質の確保と向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で出た意見等は、管理者間で共有し、現場や会社へ報告を行っているが、内容によっては反映出来るまでには至っていない。	管理者は、職員会議や申し送りにおいて、職員から現場の情報を十分に聴いている。また、代表へ報告し、情報共有している。管理者は、普段から職員とコミュニケーションを図り、なんでも話せる関係性を築いている。職員の意見から、業務内容や書類書式見直しを検討し、実践に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が把握できているかは不明だが、上司・本社への報告は行っている。職場環境・条件整備へ働き掛けているが、向上心が持てる環境作り迄には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1～2回は職員全員が外部の研修を受けることが出来る様働きかけているが、人員不足もありなかなか参加させることができていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加していただいたり、外部との協議会や研修会等へ参加し、交流をもてる機会を作り、それらをサービスの向上に生かしていける様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査などでの情報をもとに関わるが、それぞれの職員が関わりを持つ中で知り得た情報を共有し、本人にとっての困ったことや不安を解消できるよう働きかけ、安心して生活出来る様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や、面会に見えた時などその都度対応し、知り得た情報を皆で共有できるようにし、家族にとっても安心して預けられるような関係性作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の事を第一に考え、職員間で話し合いをし、対応しているが、事業所内で代替できるものが無く、どうしても必要ならば家族へもその都度相談をし、保険適用外のサービスも含め検討し対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることはして頂き、本人ができない事も様子を見ながら、声掛けや部分介助等を行い、一緒に寄り添いつつできるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に近況を伝える等し、家族の希望なども聞きつつケア方針検討し、共に本人を支えていける様心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などは特に制限せず、知人の訪問等がある、馴染みの場所に関しては、介護度が高くなり、身体的にも外出が困難になってきたのに合わせ、人員不足もあり、要望を聞いて連れて行くまでの支援が出来ていない。	利用者の生活歴や人間関係を、家族や利用者に聞き取っており、家族や知人の面談に制限を設けず訪問しやすいよう配慮している。職員は利用者の意向を家族へ伝え、理美容や墓参り、馴染みの場所など家族との外出を実現している。電話で話したり、年賀状を送るなど、馴染みの人との関係性を継続する支援を実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は皆で一緒に過ごせるよう、関係性作りを心掛けている。又、寝かせきりにならないよう、日中はなるべく起きて過ごしていただくような、状態把握に努め働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者、家族が望む際は、いつでも相談を受けたり支援できる様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望の把握に努めているが、意思疎通が難しくなっているかたは、家族も交え本人本位に検討できるよう努めている。	職員は、リビングや居室、食事中など日々の関わりの中で、目線を合わせて接することで利用者信頼関係を築き、暮らし方の意向把握に努めている。意向が表出困難な場合、家族の協力を得て本人本位に検討している。職員は、利用者の思いの把握を目標にしており、業務日誌や職員会議で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報以外にも、本人の事を知る為に会話の時間を持ったりし、そうして知り得た情報の把握に努め、スタッフ間での共有を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録や、申し送り、介護計画のモニタリングなどで職員間で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時等で家族との話を行い、その意見をもとに介護計画を作成し、毎月の職員会議やユニット会で意見を出し、それらを反映できるように努めている。	利用開始時は、事前情報を基に事業所での生活に馴染めるよう計画を立て、支援している。職員数名がチームを組み、利用者一名のモニタリング、アセスメントを行い、本人の意向や力を活かせるような目標を立てユニット会議で検証し、家族の意見を聞き、計画を作成している。ただし、長期目標の実施期間を明記していない。	長期目標の実施期間の明記により、達成度の確認と職員への意識付けに繋がるよう検討、取組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態観察を行い、ケース記録やスタッフ間での申し送りや、各ユニットでの話し合い等で現状の把握し、情報の共有し介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の声を大切にするよう心掛けているが、介護度の重度化、職員不足の影響などで、十分ではない事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の提携医はいるが、基本的には本人の馴染みのかかりつけの医療機関を利用。しかし、病状や状態の変化により、その時に適した医療機関を受診し適切な医療を受けられるよう努めている。	本人・家族の意向に沿い、かかりつけ医を継続受診している。基本的に職員が受診支援を行っており、受診結果は介護記録に記載し共有している。週1回看護職員に利用者の状況報告や相談しており、急変時には指示を仰いでいる。職員は緊急時の対応を理解しており、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師のラウンド時に、入居者の変化、気づき等を伝え、見ていただき相談等を行い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を持ち、情報交換に努めている。また、入院中の利用者と同様顔を合わせる事で少しでも安心して治療が出来る様な関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時での説明や変化があった時には家族、主治医との話し合いを行い、その内容を職員へも伝え方針を皆で共有し、チーム全体で支援できる様取り組んでいる。	契約時に看取りについて説明し、現状では支援体制が整っていないため看取りは行わない旨を家族に伝えている。状態の変化により、重度化対応・終末期ケアの指針に沿って説明を行っており、主治医を含め話し合いを重ねている。家族の意向を尊重し、納得してもらえるよう事業所で出来る限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1～2年以内に入った職員に関しては、事業所での研修や訓練は行っていないが、AEDの使用法の説明や、緊急連絡の訓練は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に自主訓練や消防立ち合いの避難誘導訓練、地震等を想定した災害訓練を行っている。防火対策として敷地内原則禁煙など対策している。近隣住民の方との協力体制は十分な働き掛けができていない。	年3回避難訓練を実施し、内1回は消防署立会いの下、夜間想定での訓練を行っている。地震想定での災害訓練も行っており、訓練後には反省点を出し合い、次の訓練に活かしている。また、職員の連絡網に沿い、緊急時の連携体制を確認している。ただし、近隣系列事業所からの協力はあるものの、近隣住民の訓練参加はない。	事業所は住宅街の中にあり、有事には地域との協力体制が必要である。地域への訓練参加に向けた働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	関わりを持つ際は、その方に合った声掛けを行い、口調や態度に気を付けている。申し送りなどは現場で行っているため、プライバシーに関わることは、他者の前ではわかるように言わないよう配慮している。	職員は利用者本人が居るところでは、支援内容などを口にしないよう配慮している。接遇に関する研修を行い、職員として使ってはいけないNGワードを確認し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉や語調にて支援している。便りなどに使用する写真の同意があり、書類など個人情報の管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方のレベルに合わせ、本人に対し選択肢を示したり、なるべく意思表示出来る様働きかけているが、忙しいときは職員主導になってしまっていることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしようと思っているが、人手不足や利用者の重度化もあり、希望に沿った支援が難しくなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては自分で選べる方には選んでいただいているが、日常でのおしゃれまではできていない。行事によっては化粧をしたりなどおしゃれすることはある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューの話をしたり、料理の下ごしらえや、片付けのお盆拭きなど手伝っていただいたりしている。	献立は外部業者を利用している。調理準備に利用者も参加し楽しんでいる。職員は、利用者と一緒に食事しながら、会話を楽しみ好き嫌いや嗜好、咀嚼の様子を確認している。日曜は、フリーメニューの日とし、職員が利用者の要望を取り入れた食事を準備している。季節行事の特別メニューや外食など、食事を楽めるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に合わせた、食事量や食事形態を考慮し支援し、食事・水分の摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けし誘導行っており、必要な方には介助し仕上げ磨きや義歯洗浄など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合わせた排泄対応しており、日中は本人の訴え時や定時でのトイレ誘導がほとんどで、なるべくトイレでしていただくように支援している。	日中はトイレでの排泄を支援しており、基本的に利用者の尿意や習慣を尊重している。排泄支援状況を一覧にし、ユニット会議などで支援内容を検討しており、各利用者の排泄の間隔を把握し、声掛け誘導により失禁の軽減、リハビリパンツから布パンツへの移行など、自立に向けた支援が確認できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を見ながら職員間で相談したりDrへ相談したりしつつ、下剤調整や水分補給に気掛け便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の拒否が強かったり、体調によっては調整することがあるが、基本的には事業所側で入浴の日程や時間は調整行っており、本人の希望に沿って行えてはいない。	各ユニットともに毎日入浴準備し、2人から3人を目安に入浴支援し、利用者は入浴日を楽しみにしている。入浴拒否がある時は、声の掛け方を変えるなど工夫している。利用者の好みの入浴剤を使ったり、職員と1対1での会話を楽しみ、ゆっくり湯に浸かり寛いで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えるため、事業所の日課の流れに沿ってはいるが、日中も午睡したり、住環境を整え安心して休める様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りやお薬手帳でないよう把握できるようにしている。処方された薬は確実に服用できるよう支援し症状の変化などにも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々でできる事を楽しんでいただけるよう対応を心掛けているが、介護度の重度化や人員不足もあり、支援内容がマンネリ化しており、十分な対応ができていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度の重度化や人員不足もあり、病院受診以外で外出支援ができていない。地域資源の利用等もできていない。	事業所周辺の散歩、敷地内の菜園を見に出たり、庭でレクリエーションを行うなど、戸外に出る機会を作っている。個別の外出支援は、家族に協力を依頼している。季節ごとに複数名でドライブを楽しんでいたが、現在コロナウィルス感染予防のため、外出制限中であるため、敷地外の外出は見合わせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の方針により、利用者の金銭所持は原則禁止しており、事業所で管理している。本人に必要なものや、外出時の買い物などはできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、その都度対応している。また、本人への手紙や電話もとりつき対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感はあまり出せていないが、天気や気温などにより、室内温度を調整、室内の換気行い、日々の清掃し清潔に務めている。	各ユニットのリビングは自然光が明るく、利用者はそれぞれが落ち着く場所で、思い思いに過ごしている。庭の菜園や花木から季節を感じることができ、玄関のサンルーフの設置により、雨の日にも外気浴を楽しめる工夫がある。職員は毎日清掃、換気、室温管理を行っており、快適に過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係性や相性を考慮し、トラブルないよう席の配置検討し、自席でゆっくり過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面に配慮したうえで、本人のADLや理解力に合わせ、使い慣れた家具を置いたり、本人の作成したものを飾ったりと、過ごしやすい環境づくりに努めている。	使い慣れたものや好みのものの持ち込みに制限はなく、家族写真やぬいぐるみ、テレビ、家具等自由に飾っている。タイプの異なる居室には、カーテン付の収納スペースがあり、整頓している。利用者の状態によりベッドと布団の選択ができる。職員が清掃や室内換気、空調管理を行っており、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアにはネームプレートをしたり、自由に動ける様、通路や居室も足元などに障害物や危険物などないよう配慮している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500083		
法人名	合同会社 グローリー		
事業所名	グループホームみつばちの家 東館		
所在地	長崎県大村市竹松本町685-8		
自己評価作成日	3/4	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通便も良く、また穏やかな住宅街のなかにあり、施設入口には情報の提供出来る様に掲示板の設置をしている。年に数回の近隣の保育園との交流も行い、理念である「馴染みの中で ゆったり ぼちぼち ありのままに生きる」をもとに自然に無理せず過ごせる環境作り力を入れている。又職員それぞれのスキルアップの為に内部・外部研修への参加を行っている。又面会等時間は決めず、出入り出来る環境づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴染みの中で ゆったり生きる ぼちぼち生きる ありのままに生きる の理念のもとに管理者職員は実践出来る様に努めているが、人員不足もあり		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣や地域との交流は難しく、保育園等と年1~2回の交流会のみである。運営推進会議には近隣の住民の方に参加しては頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学时や相談ある時は丁寧に対応出来るように心掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや報告は行い、頂いた意見等に対しては職員会議などで職員とも共有し、生かしていけるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やGH協議会での参加時に質問等ある時は相談等行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や外部研修ある時は参加できる様働きかけ、身体拘束に対する理解と拘束を行わないケアに取り組んでいる。運営面でも身体拘束適正化委員会を設置し、外部有識者らと2カ月毎に協議している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされない環境を作り、意見出来る関係を築けていける様に努めている。関連法案を学ぶ機会はまだあまりなく、研修などで機会を作る必要はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人など権利擁護を利用されている方もおり、研修などあれば学ぶ機会を持っていただくよう働きかける、権利擁護についてわからない時は、個別や会議等での説明を行うように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明行っている。また解約時も納得行くよう時間を掛け説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をおこなっているが利用されておらず、家族参加の行事時にアンケート内に入れ込んでいる、また直接意見や相談をいただくこともあり、その際の内容は全体で把握し、運営に生かせるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で出た意見等は、管理者間で共有し、現場や会社へ報告を行っているが、内容によっては反映出来るまでには至っていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が把握できているかは不明だが、上司・本社への報告は行っている。職場環境・条件整備へ働き掛けているが、向上心が持てる環境作り迄には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1～2回は職員全員が外部の研修を受けることが出来る様働きかけているが、人員不足もありなかなか参加させることができていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加していただいたり、外部との協議会や研修会等へ参加し、交流をもてる機会を作り、それらをサービスの向上に生かしていける様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し、本人と面会を行い話をすることで身体状況、精神状態や本人が不安に思っている事等を聞き、入居時やその後の生活で少しずつでも不安が解消し落ち着いた生活が出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず家族には施設に足を運んでもらい見学・説明を受け納得したうえで申し込みをして頂いている。入居が決まった場合も必ず家族と話をおこない状況や不安なこと等をきき関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一方的な入居を勧めるのではなく、本人の状態次第では他サービスの利用も視野に入れて頂き、選択できるような対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される人、する人ではなくスタッフも入居者も全員一緒に生活を共にしている人という関係を築く様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、その関係に寄り添えるような関係性を築けるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在の入居者はそこまで行くことは出来ない方が多いが、相手の方が尋ねてきて下さったり、電話又は年賀状等でのやり取りをされたりしている。出来る限り関係性が途切れない様な支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、孤立する事無く入居者同士が助け合い関わりをもてるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性は大切にし、契約が終了しても本人や家族からの相談や支援には応じられるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人がこれまで生活してきたスタイル等を崩さず、希望に添えるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や当GHを利用する前に利用されていた病院やサービス関係者等より聞き取りを行い、どんな生活歴でどんな暮らしをされていたか情報を得たうえで、GHのスタッフにも情報を伝え入居後の提供に繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日の過ごし方や状況等は毎日記入する申し送りや記録を通してスタッフ全員で流れや現状の把握ができるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族又は本人を取り囲む関係者やスタッフ間で連携を取り合い、アセスメントや意見を反映し、現状に即したケアプランが作成できるように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌及びその時の申し送り等でスタッフ全員が情報を共有できるように努めている。又月一度おこなっているユニット会で介護計画の見直しや、意見、気づき等の情報交換を行いそれぞれの状態にあった対応が出来る様スタッフ間での話し合いをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHで出来る範囲のことは本人や家族の状況等に応じて出来るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最近に入居者の年齢層や介護度が上がっている為、一人ひとりに対応した地域資源を把握・活用するまで至っていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り本人家族の希望を重視し対応を行うようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日頃の変化等、週1回のラウンドを通して介護職側より看護職の方へ情報伝達を行っている。また、その日その日で急な変化等があった時はその都度情報交換を氏、適切な対応がとれるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時では口頭での情報提供と共に「実態把握票」を提出し、利用者が安心して治療が受けれるように、また入院中の状態は病院側の相談員又は関係者との情報交換を行うように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取り対応をしていない。入居の際に事業所の方針は説明し、了解を得ているが、そういう時期が近づけば、再度家族や主治医と話し合いを行い本人や家族にとって心配や苦痛なく対応が出来る他の施設等と連携をとり支援出来る様な体制を取る様に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、急変等の対応等は過去にも数件の事例がありその時の経験した事を他のスタッフと共有出来る様情報交換をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回、そのうち1回は消防立ち合いのもとでの避難訓練と自然災害に対する避難訓練は必ず行っている。又運営推進協議会の時等を通じて近隣の方との協力体制依頼も呼びかけている。火災を未然に防ぐために火を使う台所には火元に投げ入れれば消火出来る消火剤を設置している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話中、尊重した話し方をする様に気を付けているが、利用者にとっては嫌な思いをしたのではないかと思う時もある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で一人ひとりと会話をするよう心掛け、本人の思いや希望を聞けるようにしているが、利用者によっては会話が通じない事もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の勤務体制、人数が少なくなかなか一人ひとりの希望に沿っての支援はできていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洗面が難しい方にはホットタオルにて顔拭き、個人で持たれている美容クリーム等を手渡し、自分で出来る事はなるべくして頂く様にしている。また、食後や飲み物を飲んだ後等に口元が汚れたままになっていない様、気を付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけは職員が行っているが、食事の下ごしらえ(もやしの根とり等)は一緒に手伝って頂いている。食事は職員も同じテーブルに座り介助・見守り行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取しやすいように刻みにしたり、食べやすいよう一口大に切って提供し、少ない方には10時、15時以外にもお茶やその他の飲み物を提供するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアされた後、奥まで歯ブラシが届いていなかったり、磨き残しがある事が多い為状況をみて介助をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意のある方に対してはトイレ誘導を行い失敗が少ない方は出来るだけパットやオムツの種類を減らしていくようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ飲み物や運動での自然排便が望ましいが、坐薬や下剤に頼ってしまっているところもある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	どうしても職員の人数で午前中で終わらせたり、入浴する人数を調整したりと職員の方へ合わせがちになっている。入浴拒否が強い場合には無理をせず変更するようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝てばかりの生活にならない様に、生活のリズムをつくれるように支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者の薬の副作用等の理解は出来ていないと思う。服薬時には大きな声で呼びかけ与薬を行うようにしている。内服薬等変更があった時にはその都度、確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフの人数(日中)に応じては気分転換等を行えるように支援をしているが、役割等には対応できていない部分がある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者全員ではないが、外出支援をするように努めている。家族や地域の方々との協力はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現入居されている方はお金を所持する事はないが、管理が出来る方に限り所持し使えるように支援をしていたことはあった。利用者が買い物をした時は一緒に行って使える様支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現時点では電話や手紙のやり取りを支援する利用者はいない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年は内装工事を行い、以前よりは全体的に明るくなり、生活しやすい環境になったと思う。季節感が感じられず、なかなか外に出る事がない方でも感じられる様に庭に季節の花を植えたり、行事ごとで季節を感じられる様な工夫をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアや居間はいつでも自由に過ごせるようテレビや音楽をかけ一日ゆったり過ごせるよう工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者が自宅で使い慣れた物を持参され本人の好みで自由に使われている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かる様、矢印表示をしたり安全に歩行出来る様、廊下には手すりを設けている。玄関外のスロープも雨降りでも車椅子の方が濡れない様に屋根も取り付けの工事を行った		